
100文字小説

きい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

100文字小説

【コード】

N3038K

【作者名】

きい

【あらすじ】

100文字以内で書いてみました。

(前書き)

私もチャレンジしてみました。

ハッピーバースデー！

僕は出せるだけの声で思い切り叫んだ。

時速120キロでバイクを走らせながら何度も叫んだ。

事故現場の寒そうにしている花に向かってても叫んだ。

去年の今日があいつの第二の人生の門出だ。

ハッピーバースデー！

バンザイ

飛び込むはずの電車から千鳥足の老人が電車を降りたが一人だけ残っていた。

降りた三人は閉まるドアに向かって「万歳！ 万歳！」と大声を出す。

車内の老人もドア越しに手と声を挙げた。

僕はもう少しでも生きてみようと思った。

ソファ

ソファには洗濯物を置かない。

「わたしの座るところ、無いじゃん」そう言われるからだ。

散らかる部屋の中で唯一綺麗なそこへ僕はそつと手を触れる。

もうそこには残酷な程に温もりのない合皮が張ってあるだけだった。

グラス

男の前にグラスを置いて、ビールを注いだ。

琥珀色の上にある泡はすぐにしぼんでいった。

私は男の持つグラスをうつとりと眺める。

瞬間、寒気がした。

グラスに映る男の顔は逆さまになっていて、まるで別のものようだった。

雪

やけに静かだなと思って窓を開けると薄く雪が積もっていた。

彼女は三十分早く出なきゃと舌打をしながらコーヒを口に含む。

白い雪が今は茶色に汚れながら積もっていることに彼女は気が付かないだろう。

(後書き)

難しいですね。。。

こんな感じでいいのかなあ。

でも良いトレーニングになりそうな感じですよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3038k/>

100文字小説

2010年10月28日07時49分発行